

平成 22 年度入学児童対象学校説明会 質疑応答まとめ

平成 21 年 10 月 17 日(土)・31 日(土)

◇学校説明会の各グループ 6 回分の質疑応答を項目ごとに整理し、まとめたものです。

◎学校生活について

Q. 一年生の給食が始まって、下校時刻が遅くなるのはいつからですか。

A. 給食が4月中旬以降から始まり、下校時刻が遅くなります。学年便りなどでその都度お知らせいたします。

Q. 土曜日、日曜日、放課後の行事などはありますか。

A. 土曜日と日曜日は基本的に休みですが、運動会は土曜日に実施しました。学年だけで親子スポーツ大会やお祭りなどの行事を土曜日に行うことはあります。
放課後は、希望者が1時間ほど放課後遊びをして帰ります。

Q. いじめや不登校はありますか。

A. 何をもって「いじめ」とみなすかは難しいところですが、友人関係でさまざまなトラブルは出てくるものです。問題解決を学ぶことも学校の役割です。登校しぶりの子も出てくるものです。まずは、学級学年の担任がすばやく的確に状況を把握し、指導するようにしています。カウンセラーや大学の相談室などとも連携するシステムをもっていますので、子どもたちの悩みや問題に幅広く対応するようにしています。

Q. 異学年活動や、縦割り活動について詳しく教えてください。

A. 異学年活動は、集会、交流給食、郊外園活動など年間計画を立てて行っています。運動会も縦割り班で行っています。縦割り班は、1年生から6年生まで男女1名ずつ12人ほどで構成しています。

Q. 携帯電話の使用は認められていますか。

A. 現時点では、認めていません。GPS受信機を持たせている家庭があります。

Q. 放課後、子どもを預かってもらえるようなシステムはありますか。

A. 本校では学童保育を行っていません。各ご家庭で対応していただくこととなります。

Q. 放課後遊びの時間帯を教えてください。

A. 学年や時間割によって異なりますが、低学年は、午後2時30分もしくは午後3時30分頃まで、高学年は午後4時までです。

Q. 校外学習などで現地集合・現地解散を行っているとのことですが、年間でどのくらいの頻度でしょうか。

A. 学年によっても異なりますが、年間数回になります。例えば、郊外園に行くとき、高田馬場駅で集合・解散としたり、高尾山への遠足は、新宿駅で集合・解散したりします。

◎学級編成について

Q. 一クラスの人数は何人ですか。

A. 定員は一クラス40名です。一年生は、40人3クラスでスタートします。

Q. クラス替えはありますか。

A. 児童の実態を踏まえて担任団が相談して行います。毎年クラス替えをすることもあれば、2年間同じクラスで学習することもあります。

◎カリキュラムや学習について

Q. 指導要領にとらわれない独自のカリキュラムで学習し、研究テーマも3〜4年で変わるようですが、6年間の中で、カリキュラムが変わり学習に影響が出ないのですか。

A. 研究テーマが変わっても、基本的な目指す子供像はかわりません。研究を進めるにあたって、焦点化する点が変わるだけですので、学習することが大きく変わることはありません。必要な学力はつけていますのでご安心ください。

Q. 研究校ということで、教科名もほかの学校とは違うようですが、学習内容もかなり違うのですか。

A. 実際には、国語、算数などの教科書を使って学習しますので、全く違うことをするわけではありません。もちろん、本校独自のテキストや学習材を使うこともあります。子どもの発達に合わせた学習内容の研究をしています。

Q. 学習指導要領によらない教育を行っているということですが、一般の小学校と比べて、学習内容に欠けたり、中学進学に関して遅れをとったりするようなことがありますか。また、それを補う家庭学習が必要でしょうか。

A. 研究開発学校の指定を受け、独自のカリキュラムを組んではいますが、まず、普通の教育を行うということが根本にあります。子どもたちの実態や今日的課題に合わせた新しい教育を行うことで、普通の教育以上の内容になり、その中で子どもたちの力はついていっていると考えています。このことは、いくつかの調査結果からも裏付けられています。

ご家庭には、日常的な課題をお願いしているだけです。

Q. 外国語の授業はしていますか。

A. 帰国児童学級では、外国語の授業を行っていますが、一般学級では、行っていません。むしろ、母国語の指導に重点を置いています。もちろん、広い意味での国際理解教育には、力を注いでいます。

◎施設について

Q. 洋式トイレの割合はどのくらいですか。

A. 現在は和式が多い状況です。各学年のトイレには、1ないし2室の洋式があります。低学年のトイレの洋式化を計画しています。

Q. 校舎は、耐震性の基準を満たしていますか。

A. 大学で検査を行い、すでに耐震工事を終え、基準を満たしています。ご安心ください。

◎登下校について

Q. 集団登校は、実施していますか。

A. 集団登校はしていませんが、通学経路ごとに通学班をつくり、一斉下校などの安全指導を行っています。近くの友達が分かると、いっしょに登校しているようです。

Q. 朝の登校時間は8時から8時10分とのことですが、それより早い時刻だと門に入れないのでしょうか。

A. 10分ほど早く門を開けるようにしています。各ご家庭に時間調整をお願いしています。

◎休学や復学について

Q. 保護者が海外に転勤の場合、休学や復学は可能ですか。

A. 国内外を問わず、復学が可能です。ただし、①入学して1学期間は在籍すること。②2年以内に戻ること。③6年生の4月1日までに復学することの3点の条件があります。なお、復学は、在学中1回のみとなっています。

◎給食について

Q. 食物アレルギーのある児童に対しての給食対応はどのようにしていますか。

A. 厨房内にアレルギー対応コーナーを設置して、アレルギー対応給食を提供しています。施設や調理員の面で、対応に限界があり、今後アレルギーの種類や人数によっては、お弁当を持ってきていただくということも考えられます。

Q. 2年前、給食室に問題があったようですが、その問題は解決したと判断してよろしいでしょうか。

- A. 当時は、給食施設が古く、衛生基準に課題があるということで給食を一時停止していましたが、現在では全面改修し、厨房の広さも三倍になり、最新の設備になりました。毎日、全員に対して給食を提供しています。食事の内容も、かなり優れたものを出しています。

◎進学、進路指導について

- Q. 附属中学校への進学は、どのように決まるのですか。推薦の枠などはあるのですか。
- A. 小学校では、それぞれの児童の能力や適性を考えて進路指導をしています。推薦ではありませんが、小学校の学習や生活の様子を中学校に伝えていきます。一般学級には連絡進学の制度があり、附属中学入試を経て附属中学校が入学を決定します。

◎保護者との連携について

- Q. コンピュータ室があるようですが、家庭でも使用することはありますか。
- A. 学校のコンピュータ室には、40台のパソコンがあり、使い方を学んだり実際に調べ学習をしたりしますが、家庭には特に求めてはいません。
- Q. 共働きの家庭はどのくらいいますか。
- A. 正確な数をお示しすることはできませんが、かなりいらっしゃるようです。公立の学校と同じだと思います。

◎参観や見学について

- Q. 音楽会や運動会等、保護者以外も参観や見学ができる機会はありますか？
- A. 安全面の配慮から、外部の方の参観や見学の機会は設けていません。そのため、本日のような学校説明会を開き、学校の様子をお知らせしています。

◎教育後援会について

- Q. 教育後援会の寄付金は、最低でもどのくらいかかるのでしょうか。
- A. 先ほど説明した入学時のかかる費用には教育後援会の入会金や年会費が含まれております。大学が法人化されて国からの交付金が減っている中で、子どもたちの教育環境を整えるために、教育後援会に会費を納めていただき、それを大学に寄附をしていただいています。入会金、年会費という名称ですが、寄付金としての性格もあります。さらに、任意のご寄付をお願いしていますが、ともに各ご家庭の判断にお任せしています。

◎検定について

- Q. ABC、3つのグループに分かれての受検ということですが、月齢考慮があると考えてよいのでしょうか。

A. ご質問の通り、月齢による発達段階を考慮しています。

Q. 応募資格、在学資格の点で、「保護者と同居」という条件がありましたが、どちらかが別居していてもかまいませんか。

A. 父または母が同居していれば、大丈夫です。

Q. 出願日に混雑する時間帯はありますか。

A. 多数の方が出願しますので、例年どの時間帯もかなり混雑します。時間帯によっては、1時間以上お待ちいただくこともあります。時間内にいらした方は、すべて受け付けておりますが、余裕を持ってお越しください。

Q. 出願は代理でもいいのですか。

A. 出願の時だけは、代理の方でもかまいません。ただし、書類に記載もれや印もれがある場合が多く、その場で訂正していただくこともありますので、できるだけ保護者が出願をお願いいたします。

Q. 出願のときに下の子を連れてきてもいいですか。

A. 長い時間お待ちいただくこともありますし、この時期インフルエンザなども流行していますので、小さいお子さんにとっては、好ましくない環境だと思います。できるだけご遠慮ください。

Q. 第一次検定後に当選した場合、第二次検定のための手続きの時間はどれくらいを要しますか。

A. 男児は12時まで、女児は午後4時までを予定しています。

Q. 検定の時の保護者は、両親の方がいいのですか。どちらか一人の方がいいのですか。

A. 会場の収容人数が限られておりますので、どちらかお一人でお願いします。

Q. 第二次検定の終了時刻は、何時頃になりますか。

A. 12時頃までには終了いたします。

Q. 第二次検定の保護者の面接は、集団でするのですか、個別でするのですか。

A. 面接ではなく短くお話を伺います。個別で行います。

Q. 第二次検定の子どもの服装は運動着ですか。

A. 動きやすい服装で来てください。寒い時期ですので、暖かい服装でお越しください。

Q. 第三次検定までの「保護者」をどのように捉えたらよいでしょうか。祖父母でも構いませんか。

A. 説明の通り、父または母という捉えでお願いします。

Q. 海外から帰国したばかりで、日本語があまりできませんが、考慮していただけますか。

A. 帰国児童学級の入学検定ではありませんので、他の児童と同様に行います。

Q. インフルエンザで受検できなかった場合、日を改めてやってもらえるのですか。

A. それは、考えていません。